

第2回「今後の区立図書館のサービス・配置のあり方検討会」の概要

1 日時・会場

(1) 日時

令和4年(2022年)10月26日(水)18時30分~20時30分

(2) 会場

中野区立中央図書館 地下2階セミナールーム

2 出席者(敬称略)

コーディネーター:野口 武悟 庭井 史絵

委員:佐藤 清一郎 藤井 美江子 松本 克二 高橋 博行 佐崎 さゆり
奥村 満智子 松下 智子 田中 和喜 鈴木 辰也 注連澤 文
柴田 健剛

傍聴者 2名

事務局:鈴木 正実(中央図書館)
濱口 求(教育委員会事務局次長)
渡邊 健治(子ども・教育政策課長)他2名

3 会議概要

(1) 事務局交代あいさつ

令和4年10月17日付けで以下の人事異動があった。

教育委員会事務局次長:青山敬一郎⇒濱口求

子ども・教育政策課長:濱口求 ⇒渡邊健治

(2) 補足資料説明

- ・ 前回の質疑があった項目について、資料を提示
⇒利用・世代別登録率(現状14%・30、40歳代の利用率)、購入経費・更新想定年数推移(現状26年で更新)、中央図書館事項調査(レファレンス)概要、利用者アンケート結果概要、アウトリーチ・非来館型事業等

(3) 質疑・意見交換

○質疑

- ◆ アウトリーチ事業に地区まつりへの参加とあるが、どうしているのか?
⇒ 出張登録のブースの出店やおはなし会等を実施している。今年野方図書館では、館内敷地内に地区まつりの他のブースが出店するなどした。
- ◇ 広報もアウトリーチだと思うが、広報は何を行っているか?
⇒ 今までは区HPや区立図書館HP、区報等だが、昨年度からはTwitterでの広報も開始した。
- ◆ SNSは若者向けで高齢者は疎い。それに図書館に興味が無い人は見ないので、どう届けていくか。図書館と高齢者を結びたいと考えている。

- ◇ 図書館の利用方法を区報に掲載するのもいいのではないか。
- ◆ 日常的に図書館を利用していないと図書館の場所が分からないと感じる。住宅地にあたりすると分かりづらい。道路上に分かりやすい看板を設置するなどし、歩いていて目につくような工夫が必要ではないか？
- ◇ 図書館報について、内容は充実していると思うが、どこに配架しているのか。
 - ⇒ 区役所などの公共施設（学校除く）のほか、図書館 HP、Twitter でも掲載している。
- ◆ 子ども宝仙大学との連携事業とあるが、中学校等との連携事業は何をしているのか？
 - ⇒ 学校向けには団体貸出や学校司書向けの研修会などを開催している。加えて図書館見学や図書館利用の団体登録の支援などを行っている。
- ◇ 地区祭りとの連携で図書館のない地域でも連携は可能か？
 - ⇒ 可能なので、いつでもお問い合わせいただきたい。
- ◆ 高齢者会館との連携事業も可能か？
 - ⇒ 同様に可能なので、いつでもお問い合わせいただきたい。
- ◇ 利用者アンケートの結果について、区側の想定どおりか？それとも想定外か？
 - ⇒ 概ね妥当かとは感じているが、30 分以内の利用も多かったのと、20 歳代の登録率が少ないのは驚いた。
- ◆ 図書館ごとだったり、地域差だったりというところは分析しているのか？
 - ⇒ 分析した。中央や中野東など規模が大きいところは滞在時間が長い傾向にあったことと、地域館は貸出や返却の利用が多かった。地域毎のニーズについて、今後分析していきたい。
- ◇ 中野区内に大学は多くあると思うが、関わりが薄い大学との連携状況はどうか？
 - ⇒ 昨年度から少しずつ広げるために行動している。大学以外にも高校との連携も図っていきたいと考えている。
 - ⇒ 専門学校からの需要はあるのではないか。図書室があっても狭かったりするので、連携の需要は多いと思われるので今後検討して欲しい。

○意見交換

- ◆ どうしたら図書館を使うのかを周りの人に聞いてみた。ある人は、今のままでいいんじゃないか。また、ある人は中野東図書館のようにお茶を飲める場があるといい。他にも、ギャラリーなど展示スペースがあることで図書館にも寄っていく。そもそも施設の配置については、半径 1 キロのところの中野区が図書館を設けるべきなのか。近隣区と連携協定を結ぶことで多くの区民が使える。全区で共通の図書カードもいいと思う。15 個もある区民活動センターで図書の貸し借りができないか。
 - ⇒ 各区民活動センターを貸出・返却のポイントとしては、有効だと思う。
 - ⇒ 図書の受け渡しのポイントは多くていいし、郵便局やコンビニでの受取等、それくらい身近なところで借りられたらいいと思う。近隣区等俯瞰的に見て施設配置を考えるのは重要な視点だと思う。自治体間を超えて考えていく、それくらい柔軟な施設配置

は有効だと思う。結果的に区民の図書館利用者を増やすという視点が大切だ。

⇒ 中野区は専門図書館が他自治体に比べて多い。例えば矯正図書館。誰でも利用できるがあまり知られていないのが現状。区立図書館以外の図書拠点とのコラボは面白いし、区立には無い専門書がある。お互い連携していったらいいのではないか。

◇ まめに図書館を利用している友人に聞くと、借りるのは図書館に行くけれど、返すのが面倒だと感じるとのこと。区民活動センターに返却ポストが欲しい。在宅配送サービスはあるとのことだが、高齢者施設に入所している人に本を届けるサービスがあるという。高齢者施設への団体貸出は行えるのか？

⇒ 利用できる。

⇒ 山口市などは、色々な街角に図書コーナーを設置し、内容も充実させている。

⇒ 高知県の図書館は眼科の病院にデージー資料を置いているところもある。それが視覚障害の方々の図書館利用にも繋がった。

◆ 視覚障害者が図書館を利用する際に気持ちが良いなと思うときは、職員の対応や移動時の誘導等少しでも知識を持ってもらうととても良い気持ちになる。機会をもらって中央図書館でそういうレクチャーをさせてもらったが、他館でも進めて行って欲しい。

また、対面朗読室の充実も図って欲しい。1人でデージーを読んだりもあるが、朗読ボランティアの方に読んでもらうという時間があまり無い。朗読ボランティアを増やして行って欲しい。

デージー図書は中央図書館にもあるが、色々な読書困難者の方にも勧めて欲しい。読書困難者である高齢者などにデージーフォーマットの音訳図書を活用できないか。聞きやすく、好きなときに好きなだけ聴ける。デージー再生機も高価なので、図書館で導入して行って欲しい。

⇒ デージーは著作権法的に貸出対象者が視覚障害者等に限定されている。

⇒ 今後利用促進のためにも利用要件の見直し等は検討して欲しい。

⇒ 現状の朗読ボランティアの人数は？

⇒ 8名ほどで、上高田で活動されている方が多い。

◇ 先日新聞を読んでいたら、本を全ての人に、バリアフリーが広がるという記事があった。デージー図書や電子書籍が活発化している。読書バリアフリー法への対応、この検討会の目的でもあり、課題でもある。先日所沢の角川武蔵野ミュージアムに行ったが、ここは博物館、美術館、カフェなどが複合化している施設になっていて、中野東図書館などと目指しているコンセプトは一緒と感じた。中野で新たに図書館を作る時には、バリアフリーの要素と未来型の誰でも使える複合的な図書館にして欲しい。既存の図書館にも同様に取り組んで行って欲しい。また、加えてイベントなどの広報活動を活発にして欲しい。

◆ 自分の娘は、読書が嫌いだが、みなみのライブラリーへ勉強にいったところ、いっぱい利用出来なかった。館毎の特性に応じて運用を行って欲しい。例えばライブラリーは小学校にあるので、小学生優先であってほしいと思う。ここの図書館にはこの売りがあるというような物があれば、行く動機になるかもしれない。

◇ 前日も話が出た貫井図書館はとても魅力的な図書館で、やはり中野区にも魅力的な図書館が欲しいと思う。空白地域の東中野近辺に住んでいる人は中央図書館まで仕方なく行っている。サービスポイントは多く設置した方がいいと思う。中野東図書館では自習

などは出来るが、地域の図書館での自習をどれほど許容しているのか。

⇒ 貫井図書館のように図書館と美術館のようなML連携の方向性が全国的にも見られている。そういうニーズをくみ取って、改築などの際に取り入れることが大切。

- ◆ 区民活動センターでの貸出・返却は若い人に利用してもらえる。だが、区民活動センターが帰り道にないなどといったこともあるので、駅に予約本受取ボックスのようなものあれば、本を借りやすくなると思う。子育て中の時間が無い人は週末以外に本のことを考える余裕は無い。

貫井図書館や他の図書館は子どもの一時保育を行っていて、その間にお母さんが本を選んだり出来る。そういったことは中野区でも出来ないか。

- ◇ 図書館は一度建てたら長く使うもので、先の将来を予想して、サービスにあった形を作っていくという視点を持って、設計など行って欲しい。

⇒ 非常に難しいテーマではあるが、次回のテーマでのICTを使った図書館サービスを扱うが今後の図書館のテーマになっていくのではないかと。様々可能性を秘めている。

- ◆ 先日ライブラリーへ行ったが、中学生以下は土日、夏休みは学校図書館を使えるとのことだった。中では自習の設備などがあるのか。

⇒ 開放時は自習も可能な設備がある。

- ◇ 「ライブラリー」は、身近に貸出を受けられる場所があるのはありがたい。通いたくなる図書館とはと知人に聞いたところ「明るくて綺麗」、そして「カフェが欲しい」。カフェ目的で出かけ、ついでに図書館利用とつながると良いと思う。YA向けのコーナーがあるのなら高齢者向けのコーナーがあってもいいのではと感じる。大活字本やDVDを並べたり、新聞や雑誌を安心してゆっくり読めるという場は必要だと感じる。

- ◆ 中野区の図書館はどこも暗く感じる。入口が暗いとどうしても敬遠することもある。まず入ってもらって、そこから始まるんじゃないか。自動貸出機など導入され、機械を通して利用するのもいいが、戸惑うこともあるので、相談しやすいように人が居て欲しいと思う。

- ◇ 今後の図書館サービスについては2つの視点あると思う。まず、図書館としての機能、蔵書の冊数、期間延長等にこたえるなどの基本的な機能や場所としての魅力。そこに行かないと受けられないといったようなサービス。時代の変化で両者は融合していくと思う。図書館に行ったら、電子書籍を読めるなど。会議資料に記載されている非来館型サービスに掲載されている音楽などの配信サービスはやった方がいいと思う。中野区の図書館は新刊本などが遅いので、隣接区との融通で満足度を上げられたらいいのではないかと。駅に貸出・返却のポイントを設置して欲しい。

- ◆ 図書館はまず場所としての魅力があると思う。この検討会に参加した理由としては、本が好きだから。子ども一緒にと本に関連した施設を回っている。民間の施設も充実してきているところもある。しかし、公共の図書館だから、民間とは違う誰でも使える居場所となりうるところが図書館の魅力だと思う。そのためには、タッチポイントの多さが必要。思ってもみない活用の方法を発信していくべきだ。図書館を利用しない人への認知方法の拡大としては、本を使わない図書館といった活用方法があるのではないかと。カフェや一時保育、小田原で行っているぬいぐるみの図書館お泊まりなど、そこから図

書館の利用に繋げていく。図書館に来ると色々な体験ができるというのを売りとするべきだと思う。

- ◇ カナダでは、図書館でホームワークセンターのような機能を持っている。大学生が小学生の宿題を手伝うなど図書館に関わる人を増やすことが有効だと思う。読書以外のタッチポイントも増やすと面白いのではと感じる。
- ◆ 今までスポーツ施設と図書館等、今までにない施設同士の連携をすることが効果的なものもあるかもしれない。色々なことを一体的に検討していくべきだ。現代は情報ニーズが無い人はいないと思う。図書館に行くと Google の検索結果の先を調べられるといったようなレファレンスの有効性のアピールが必要ではないか。